

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors

タイトル：「東・東南アジアにおける地域間越境移住の人類学」（平成22年度第2回研究会）

日時：平成22年11月27日（土曜日）午後1時00分より午後7時

場所：アジア・アフリカ研究所 304号室

報告者・報告タイトル：

発表 1：

京都女子大学 准教授 工藤正子先生

「越境する子育て：パキスタン人男性と日本人女性が形成するムスリム家庭の事例から」

パキスタン人男性と日本人女性が形成するムスリム家庭において、子育てが国境を越えて行われている事例をとりあげ、その複合的な背景要因を明らかにするとともに、そうした再生産のグローバル化が、子どもたちの今後の社会経済的な位置にいかにかに作用しているのかについて考察を行った。最後に、日本社会における「多文化教育」の議論において見えにくい、越境する子どもたちの現状を理解し、社会的支援を検討することの必要性を示唆した。

発表 2：

国立民族学博物館・准教授 陳天璽先生

「国際結婚と無国籍問題」

本発表では、フィリピン、タイの事例から、無国籍の子供たちについて考察するとともに、国際結婚結果生じる無国籍の子供たちの存在について考察した。フィリピンについては、日本人の父とフィリピン人の母を持つ少女の国籍問題の事例について考察した。またタイについては、山岳少数民族の子供たちの無国籍問題について考察した。

つづいて日本国内で発生する無国籍状態の子供たちについて、その現状および制度的問題点を検討し、さらに、日本内外における日本に関わる子供たちの国籍問題に関して、将来的な課題を検討した。

発表 3：

千葉大学文学部・教授 鈴木伸枝

「華燭、そして宴のあとで——日比結婚・家族の境界、1970—2010」

越境（クロス・ボーダー）結婚は世界中で増加している。本報告では、まず、①世界的な傾向、②越境結婚についての学術的な言説およびその変化、③日本における越境結婚の動向、④日比結婚の背景・特徴の4点について概観する。次に、フィリピン人妻に焦点を当て、彼女たちが越える文化・社会・経済的な境界、越えられない境界と、越えたくないあるいは回帰したい文化・宗教の規範的境界を考察する。最後に、過去20年間に徐々に上昇し、2008年の国籍確認訴訟前後から顕著になった、子ども移民の状況と彼女・彼らの文化・社会・経済的な境界について紹介する。

本報告の詳細については、以下にある報告者の既出論文などを参考にされたい。

<<http://chiba-u.academia.edu/NobueSuzuki>